

令和5年度 ニュージーランド研修

令和5年8月 10日

伊藤・大谷

7月28日(金)から8月9日(水)まで13日間、2年生の希望者18人がニュージーランドにて海外研修に参加しました。ニュージーランド北島北部のファンガレイは、美しい太平洋の海に面した小さな街です。滞在したタウラロア・エリア・スクールは、初等部から高等部まで合わせて、およそ450名の生徒が在籍している学校です。生徒たちはホームステイをしながら、この学校でたくさんの文化を経験し、学ぶことができました。



学校では、先住民族マオリの踊りであるハカを披露してもらい、実際に踊り方を教えてもらいました。また、マオリ族のシンボルであるKoru(シダの模様)を自分たちのデザインで描いたり、Fish Hook(釣り針)を象ったアクセサリー作りにも挑戦したりしました。野外活動ではキーウィ鳥の保護施設を訪れ、その生態を学び、実際に保護されたキーウィを近くで見触ることもできました。ベイ・オブ・アイランドでのクルーズでは野生のイルカやペンギンを見ることもできました。現地の人にとってもなかなか珍しい体験だったそうです。



マオリ族の踊り「ハカ」



アートレッスン



キーウィ保護施設



ベイ・オブ・アイランドのクルーズ



牧場体験



キーウィ マスコット作り

日本文化の発信も行いました。学校では、書道、浴衣、折り紙、カルタや福笑いなどの日本の遊びを紹介し、一緒に遊びました。特に、折り紙は大人気でした。また、津島高校や尾張津島天王祭についても発表できました。最終日にはソーラン節を披露し、皆で一緒に盆踊りを楽しみました。

ホームステイ先では、津島市観光協会から頂いた尾張津島天王祭のパンフレットとうちわ、そして津島毛織工業協同組合安達さんから頂いた尾州毛織物の端切れを授産施設にてペンケースにしたものをホストファミリーにお土産として渡しました。ホストファミリーの方々はとても喜び、たくさん質問してくれたそうです。生徒たちは、津島市の歴史や文化について、英語で説明することができました。



ソーラン節



浴衣紹介



折り紙体験

生徒たちは日本での生活との違いにとっても驚いていました。学校の校庭が芝生で、生徒たちは裸足で体育をしていること。家の敷地がとても広く、牧場を持っている家があること。また、「ニュージーランドの子は、(自分のことを)何でも自分でやれるんだ!」と感服して、ホームステイ中、「家事など自分でやれることを見つけて自分から動くように心がけた。」と言っていた生徒もいました。研修後には、「もっとNZに居たい。」「大学では長期留学に挑戦しようかな。」という声をたくさん聞くことができました。

この度、研修の運営に携わってくださった現地校の先生方や13日間のホームステイを快く受け入れてくださったホームステイ先の方々には、本当に多くの面で援助して頂き、生徒たちは安心できる環境でたくさんのことを学ぶことができました。また、お土産品を提供してくださった津島市観光協会の方々、毛織工業協同組合の方々、その他関わった全ての方々にお礼を申し上げます。生徒たちもこの感謝の気持ちを忘れず、今回の研修で学んだことを活かして、これからも様々なことに挑戦してほしいと思います。